

平成23年度農林水産試験研究 中間評価結果 (平成23年7月27日開催)

\*総合評価について

A:優先して継続していくべきである。B:継続していくべきである。C:継続には、計画変更が必要である。D:継続の必要性は低く、中止すべきである。

番号	機関名	課題名	研究期間	研究概要	総合評価	評価委員コメント	委員コメントに対する研究機関の回答・考え方等
1	水産総合センター	ドジョウの増養殖技術開発調査	H21～24	金沢名物「ドジョウの蒲焼き」の原材料は、県内産は皆無に等しく、これまで輸入物や他県産天然物に頼ってきたが、資源の減少等から、確保が難しい状況となっている。このため、県内産種苗を用いた種苗生産・養殖技術を確立し、休耕田を活用した養殖を推進することで、原材料の確保と共に農家や養殖業者の収入の向上を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内需要を大方満たせる水準の生産体制に持ち込むには、どのぐらいの生産規模が必要で、それは達成できそうなのか。</li> <li>・金沢名物ドジョウの蒲焼きを後世に伝えていく上でも、期待の大きい研究である。</li> <li>・比較的容易に着手できる性格のものなのか、着業者のターゲット・理想像は高齢化・兼業等で休耕に至った小規模農家なのか、農水産業以外の業種からの参入も想定しているのか。</li> <li>・特定の人、企業の利益向上ではなく、導入地域の社会経済的メリットが高い形での参入になればよいと願う。</li> <li>・人工採卵法導入後の数値に期待。普及の可能性は高い。</li> <li>・一般希望者の休耕田での試験、マニュアル作成が進むことを期待する。</li> <li>・一層の研究成果を期待する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内におけるドジョウの取扱量は近年減少傾向にあるものの、平成21年度で18トン余りであり、ドジョウ1尾を18gとして計算しても100万尾となる。養殖希望者の生産可能尾数は、現在のところ、10～15万尾程度と見込まれ、種苗生産施設の拡張等により対応(種苗供給)が可能と考えられるが、県内養殖で需要全てを満たすことは難しい。</li> <li>・種苗生産は業者では難しいが、養殖自体は比較的着ししやすい魚種である。休耕田を利用した養殖を推進することによる里山の振興が目的であることから、農家による小規模養殖、他業種による養殖いずれも対象としている。なお、既に建設業者が試験飼育を行っており、今後も他業種からの参入(大規模な)は十分考えられる。水産総合センターでは、養殖指導体制をより強化する予定である。</li> </ul>
2	畜産総合センター	乳用牛における雌判別体外受精卵生産技術の開発	H21～24	酪農経営では雌子牛の生産が望まれており、雄子牛の出生は経済損失となる。効率的な雌生産を行うため、生体卵子吸引・体外受精技術による雌判別体外受精卵生産技術を開発する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・性コントロールについては、まだ向上できる余地がある。凍結保存技術については、既存の方法を十分に調査した上で、改良に取り組むべき。</li> <li>・性判別卵の移植後の発育状況に問題はないか。</li> <li>・今後の成果に期待する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・凍結保存技術については、現在、ガラス化凍結保存法について検討中である。</li> <li>・移植については現在3頭が受胎し、1頭は流産したが2頭は順調に妊娠を継続し、2月および6月に分娩予定である。</li> </ul>
3	畜産総合センター	肥育期間の短縮による「能登牛」低コスト生産技術の確立	H21～24	増体重や肉質を低下させずに、肥育期間を短縮し、経営を改善する技術を確立する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脂肪交雑の向上を含めた、更なるおいしさへのこだわりと低コスト化のバランスが大切である。</li> <li>・飼料費の削減が品質低下につながるの望ましくない。ブランド力を高め、価格と品質のバランスを最適にすることは、コスト削減より重要。</li> <li>・コスト削減による品質への影響はどうなのか。</li> <li>・地域内で、飼料が確保されて、かつ畜産以外の活動の活性化にもつながり、環境や資源の維持・活用にもなって、その上理想的な肉質での生産が実現できるレベルになれば、県民にとってもわかりやすく評価しやすいものになると思うので、引き続き工夫していただきたい。飼料米を作る地元農家の方にも良い影響を与えるものになることを期待する。</li> <li>・低コスト化と肉質向上を図ろうという目的に加え、自給率向上の点も評価できる。今後の増産に期待したい。</li> <li>・肥育期間を短縮し、飼料費を削減できた事は一定の評価ができる。今後期待する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肥育期間短縮(コスト削減)に伴う大幅な肉質低下は見られていない。</li> </ul>